

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUGASAKI UNIVERSITY

2015年度 活動報告書

第一部 災害復旧・復興支援に関する活動報告

第二部 ボランティア・NPO 活動センター活動報告

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

— 2015(平成27)年度報告書目次 —

2015年度のボランティア・NPO 活動センターをふりかえって(センター長)	3
第一部 災害復旧・復興支援に関する活動報告	5
2015年度東日本大震災の復興支援に関する活動	6
1. 東日本大震災・復興支援活動	7
○はじめに	
○学長メッセージ	
○東日本大震災 第1回復興支援ボランティア	
○東日本大震災 第2回復興支援ボランティア	
○東日本大震災 第1回復興支援ボランティア報告会	
○東日本大震災 第2回復興支援ボランティア報告会	
○Oh!ガッツ!雄勝♪ ～雄勝の今を伝えたい～	
2. その他の災害復興支援活動	16
○ネパール大地震被災者支援のための募金活動	
3. 東日本大震災復興支援フォーラム2015	18
○東日本大震災復興支援フォーラム2015“復興”に寄り添う ～今までを振り返り、明日を考える～	
第二部 ボランティア・NPO 活動センター活動報告	21
ボランティア・NPO 活動センター 2015年度の取り組み	22
1. ボランティアコーディネート	23
○ボランティアコーディネート集計(月別、活動希望分野別、学部別相談者数)	
○団体登録制度とボランティア募集情報シート	
○外部団体来室内容と広報依頼件数	
2. ボランティア情報の提供、センター事業の広報	26
○チラシの配架やポスターの掲示	
○メールマガジンの配信	
○ホームページ	
○ボランティア・NPO 活動センター通信	
○講義やゼミ(演習)でのセンター紹介	
○SNS(Facebook、Twitter)	
3. 学内におけるボランティア活動の実践と参加のきっかけの提供	28
○リユース傘貸し出しプロジェクト	
○深草広報誌「ボラゴン」の発行	
○瀬田広報誌「Volunteer News」の発行	
○ボランティア募集団体合同説明会2015	
○Let's ボランティア ～ボランティアしようよ♪～	
○深草龍谷祭への模擬店・展示の出席	
○瀬田龍谷祭への出席 響心 ～明日へつながる扉～	
○夕照コンサートでの東日本大震災復興支援活動の展示と模擬店出店	
○サークル活動・ボランティア活動 情報交換会&地域活動支援	
4. 活動を通じた地域との連携 ～学生と地域をつなぐ～	44
○こどもサマーフェスティバル2015 竹だ!夏だ!水だ!	
○第25回深草ふれあいプラザへの協力	
○南区民ふれあいまつり ちびっこひろばへのブース出展	

- 大津祭へのボランティア協力
- ボランティア啓発企画「まちづくり×子ども編」
- くさつ子どもフェスタ2016への協力
- コミュニティ企画 ～広げよう！瀬田コミュニティの輪～
- 伏見区野宿者支援プロジェクト

5. 共催・協力事業 59

- NGO スタディツアー合同説明会
- セーフトラベルセミナー2016
- その他の地域イベントなどへの出展・協力

6. 体験学習プログラム ～国際社会や地域の課題に目を向け、視野を広げる～ 63

- 国内体験学習プログラム
 - ・岐阜県揖斐川流域・垂井町「フェアトレードタウンを目指す町垂井 ～揖斐川流域から提案する穏やかな社会～
 - ・福島県福島市、南相馬市、本宮市、郡山市「福島スタディツアー ～福島の「今」を見、福島を生きる人々の「言葉」を聴き、そして「自分」を見つめる～
 - ・京都府丹後地方「丹後に会おう ～地域資源（人・自然・歴史・文化）の活かし方～
- 海外体験学習プログラム
 - ・台湾「台湾で市民社会を問い直す ～行動する市民・学生と交流する旅」～
 - ・タイ王国「“新しい復興のカタチ”を訪ねる旅 ～インド洋大津波の被災地を訪ね、ネパールや日本に活かす～」
 - ・インド共和国「持続可能な暮らしと農業を考えるインドの旅」
- 体験学習プログラム報告会

7. ボランティアリーダー育成事業 96

- ボランティア入門講座
- ボランティアリーダー養成講座
 - ・第1回「地域への興味関心を企画につなげる」
 - ・第2回「ミーティングをPOWER UP！ ～ファシリテーション力をつけよう～」
- ボランティアコーディネーション力3級検定

8. センターを運営する学生スタッフの育成 101

- オリエンテーション合宿
- 夏合宿
 - ・深草キャンパス「ボラセンレボリューション2015」
 - ・瀬田キャンパス「カタチの違う1ピース ～参画△してできる！1Dパズル」
- 春合宿
 - ・深草キャンパス「ボラセンリフォーム劇的ビフォー&アフター ～なんということでしょう～」
 - ・瀬田キャンパス「春合宿2016 ～共有そして発展へ～」
- 外部団体主催の研修会への参加
 - ・大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2015
 - ・大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2016
 - ・第4回学生ボランティアフォーラムにおける「アクションマーケット」へのブース出展
 - ・飛び出せ龍大！ ～ボラセン同好会うちらボラセンめっちゃ好きやねん～

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター規程 120

2015年度龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター名簿 121

2015年度の主な新聞記事 等 123

第一部

災害復旧・復興支援に関する活動報告

第二部
ボランティア・NPO 活動センター活動報告

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター規程

制 定 平成13年3月1日
一部改正 平成15年5月15日
平成17年7月21日
平成19年9月27日

(設 置)

第1条 本学にボランティア・NPO 活動センター（以下「センター」という。）を置く。

(目 的)

第2条 センターは、営利を目的としないボランティア活動を通じて、相互に学び合うサービスラーニングという共生の理念を具現化し、本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 センターは、前条の目的を遂行するために、次の事業を行う。

- (1) ボランティア・NPO 活動を通じた人材育成及び教育支援に関する事項
- (2) 本学の教育研究活動とボランティア・NPO 活動との連携に関する事項
- (3) 本学の教育研究に相応するボランティア・NPO 活動の環境整備に関する事項
- (4) その他、ボランティア・NPO 活動センター委員会が必要と認めた事項

(役職者)

第4条 センターに、次の役職者を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 副センター長 2名

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

2 センター長は、専任の教育職員の中から、学長が指名する。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長が事故ある場合又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理又は代行する。

2 副センター長は、専任職員の中からセンター長が推薦し、学長が委嘱する。

(委員会)

第7条 センターは、第3条に規定する事業を運営するために、ボランティア・NPO 活動センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター長の推薦する専任職員 若干名
- (4) センター事務部長

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(任 期)

第8条 センター長、副センター長及び委員会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員会の招集)

第9条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

(事業報告)

第10条 センター長は、センターが実施した事業について、毎年、学長に報告書を提出しなければならない。

(事 務)

第11条 センターの事務を処理するために、ボランティア・NPO 活動センター事務部（以下「センター事務部」という。）を置く。

2 センター事務部に、必要な事務職員を置く。

付 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則（平成15年5月15日第11条改正）

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

付 則（抄）（平成17年7月21日題名、第1条、第3条、第7条、第11条改正）

この規程は、平成17年7月21日から施行する。

この規程は、平成19年10月1日から施行する。

2015年度 龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター名簿

センター委員

伊達 浩憲 (センター長 経済学部・教授)
筒井 のり子 (副センター長 社会学部・教授)
松永 敬子 (副センター長 経営学部・教授)
和田 恭幸 (文学部・教授)
松島 泰勝 (経済学部・教授)
河合 美香 (法学部・教授)
北川 秀樹 (政策学部・教授)
遊磨 正秀 (理工学部・教授)
カルロス M.R.D (国際学部・教授)
中川 千草 (農学部・講師)
加藤 博史 (短期大学部・教授)
椿本 善規 (REC 事務部課長)
田中 秀樹 (学長室広報課長)
村穂 幸司 (学生部課長)

事務局

大石 洋史 (センター事務部長)
平井 良和 (センター事務部課長)
竹田 純子 (コーディネーター)
東郷 珠江 (コーディネーター)
上手 礼子 (コーディネーター)
古澤 登美代 (コーディネーター)

学生スタッフ (2015年度 計77名)

〈深草キャンパス 77名〉

田中 奏多 (文学4)	田中 典子 (文学4)	森本 浩司 (文学4)	山口 駿 (文学4)
山本富美子 (文学4)	田部 翔 (経営4)	星野 智子 (政策4)	池田 美優 (国際4)
山下 凌司 (国際4)	石野 遼平 (文学3)	小田 美紀 (文学3)	中北 梢 (文学3)
藤原 恵太 (文学3)	松本 惇宏 (文学3)	梅川 翔太 (経済3)	木谷 翔太 (経済3)
黒瀬 智加 (経済3)	佐野 颯 (経済3)	中村 太紀 (経済3)	福井 貴登 (経済3)
藤野 優祐 (経済3)	松本健太郎 (経済3)	山本 翔 (経済3)	小山 由貴 (法学3)
岩本 奈子 (法学3)	白土 奈央 (法学3)	中村 勇介 (法学3)	平舗 眞子 (法学3)
山口磨由子 (法学3)	依田 匡史 (法学3)	今井 夏帆 (政策3)	串 祐季 (政策3)
永田 紗瑛 (政策3)	西川 浩由 (国際3)	野口 幹 (国際3)	畑中 健吾 (国際3)
樋口 朝香 (国際3)	余根田 敦 (国際3)	田ノ上優光 (文学2)	永翁ふみな (文学2)
森 直樹 (文学2)	上野 翼 (経済2)	高野 善暉 (経済2)	津田 莉沙 (経済2)
春名 亮佑 (経済2)	馬庭 颯斗 (経済2)	藤岡 舞 (経済2)	米山真奈美 (経営2)
新川 貴大 (法学2)	石川 真帆 (法学2)	大矢 誠志 (法学2)	田中 敬子 (法学2)
橋本 望海 (法学2)	三戸部香帆 (政策2)	南山 裕紀 (政策2)	小川 諒也 (国際2)
川村 愛香 (国際2)	竹村 祐希 (国際2)	田村 奈生 (国際2)	三輪可那子 (国際2)
江島 美紀 (文学1)	坪下 大介 (文学1)	西原由佳子 (文学1)	延安 美菜 (文学1)
藤原 純 (文学1)	鴻池 遼 (経済1)	長田 雄大 (経済1)	原 弘樹 (経済1)
山田 真己 (経済1)	伊藤 万莉 (経営1)	江上 春菜 (経営1)	辻 祐児 (法学1)

日野萌絵子 (法学1) 西山 大樹 (政策1) 乗矢 隆良 (政策1) 松坂 智彰 (政策1)
 矢野 龍平 (政策1)

〈瀬田キャンパス 55名〉

小川 菜緒 (社会4)	越智 達也 (社会4)	口分田知佳 (社会4)	小林 陽太 (社会4)
辻村 圭祐 (社会4)	仲田 匡志 (社会4)	西本 史佳 (社会4)	林 知輝 (社会4)
山内 康平 (社会4)	西村 若奈 (理工3)	野中 美華 (理工3)	山崎あかり (理工3)
小牧 裕美 (社会3)	中川 真実 (社会3)	福田 七海 (社会3)	岡本 龍吾 (理工2)
川向ひかり (理工2)	後藤 和成 (理工2)	清水 謙汰 (理工2)	首藤 論志 (理工2)
田川 智也 (理工2)	中川 涼太 (理工2)	松尾 拓真 (理工2)	矢橋 耕助 (理工2)
渡邊 祐斗 (理工2)	井筒 智沙 (社会2)	大谷 征志 (社会2)	柏島 恵 (社会2)
佐久間 涼 (社会2)	高間 美穂 (社会2)	長友 沙樹 (社会2)	中原 茜 (社会2)
中村 香菜 (社会2)	橋本 直樹 (社会2)	福納 知香 (社会2)	吉元 香織 (社会2)
藤澤 昂也 (理工2)	三坂 悠太 (理工2)	香古 竜也 (理工1)	黒川穂乃佳 (理工1)
清田 竜司 (理工1)	多田 涼太 (理工1)	仲上 昂希 (理工1)	松澤 宏紀 (理工1)
宮崎 義己 (理工1)	矢野 佑磨 (理工1)	山内辰太郎 (理工1)	川上 高嶺 (社会1)
福山 真琴 (社会1)	藤村 一樹 (社会1)	山本 加奈 (社会1)	河野 沙織 (農1)
川辺 実和 (農1)	松下 実代 (農1)	森岡 尋仁 (農1)	

ネパール地震の被災者支援

「少しの我慢募金協力を」

留学生が 龍谷大キャンパスで活動

ネパール地震の被災者を支援しようと、龍谷大の学生が中心となって有志の会を組織して取り組みを展開する。22日まで各キャンパスでメンバークンパシを呼びかけるほか、7月末まで学



金に協力する男子学生。大津市の龍谷大龍谷キャンパス。説明。農村部の復旧が遅れ、政府の支援も届いていない現状を訴えた。これを聞いた同センターの学生らが会を結成し、義援金を集めることを決めた。今月18日から、深草と大宮（京都市下京区）、瀬田（大津市）の各キャンパスで昼休みを中心に募金活動を実施している。このうち、龍谷大キャンパスでは、会のメンバークンパシを持って食堂前などに立つ。被災地の写真を見せながら「雨期に入ると土砂崩れの恐れがある。早期の復興が必要」と呼びかけ、学生たちに協力を求めている。メンバークンパシの募金活動は22日まで。各キャンパスのボランティア・NPO活動センター事務局や生協などには7月31日まで募金箱が設置される。活動に参加している社会学部4年の小川菜緒さん(21)は「現地は物価が安いので、少しの協力でも大きな支援になる。何か買物のをちょっと我慢し、募金に協力してほしい」と話していた。

2015年5月20日 経済新聞

温かさが希望、心の支え
故郷の生活、変化に危惧

東日本大震災からの復興や被災地の現状をテーマにしたパネル討論(京都市伏見区・龍谷大)



伏見・東日本大震災支援フォーラム

東日本大震災復興支援フォーラム(復興)に寄り添うことが12日、京都市伏見区の龍谷大で開かれた。津波被害を受けた宮城県石巻市の生産者や大学関係者らを招いたパネル討論があり、被災地の現状や復興の難しさについて考えた。震災が発生した2011年からボランティア活動が続けている同大学が主催し、約200人が参加した。学生たちが活動を振り返り、ドキュメンタリー作家の石井光太さんが講演した。石井さんは震災直後の遺体安置所での取材を振り返り、「遺体に対して泣きながらお経をあ

現状、難しき考える

ける僧侶や、亡くなった赤ちゃんの気持ちを代弁するように両親に話しかける地元の民生委員の方がいた」と紹介。「人間は悲しみの中では生きていけない。被災者はそういう温かさを希望にし、心の支えとして生きていくのではないかと語った。パネル討論では、石巻専修大の坂田隆学長や雄勝町生産販売協同組合の高橋頼雄さん、龍谷大の学生らが被災地の今と復興の在り方を考えた。坂田学長は「復興には最低20年かかると思っている。進捗具合を聞かれるのが一番嫌だ。トラウマや経済的な問題、就学や進学できない人がいる」と話した。高橋さんは「防潮堤の計画は、海と生きている地元の住民の生活にはそぐわない。故郷が大きく変わろうとしていることに危惧している」と述べた。

(後藤創平)

2015年12月13日 京都新聞

鎮魂 手合わせ歌う

東日本大震災から5年を迎えた11日、県内の寺院や大学で、市民や県内に避難する被災者が犠牲者を悼みつつ、復興を願い祈りをささげた。同じ悲劇を繰り返さぬよう、自治体では訓練で備えを確かめた。

東日本大震災 5年

○：龍谷大瀬田キャンパス（大津市瀬田大江町横谷）では七十人の学生や教職員が犠牲者を悼む法要に列席しお経に従って手を合わせた。一輪の花を手には復興支援ソング「花は咲く」も合唱した。教職員や学生有志でつくる「ボランティア・NPO活動センター」のメンバーが福島県を訪れた活動報告会もあった。

東京電力福島第一原発事故で避難する人たちの仮設住宅を二月下旬に四日間、回ったといい、社会学部の筒井のり子教授は「大人たちが盛んに『無知は罪』と言っていた」と報告。原発の立地を認め、管理を東電に任せきりにしたことに自責の念を抱えている人が多かったという。訪問団の学生代表で理工学部二回生の田川智也さんは「現地を訪れ、悩んでいる人の話を聞いて初めて理解できると学んだ」と述べた。

福島で聞いた 自責の念報告 龍谷大



花を手にとり歌う龍谷大生や教職員。大津市瀬田大江町横谷の龍谷大で

発生時刻に鐘で冥福祈る 延暦寺

2016年3月12日 中日新聞

東日本大震災復興支援ボランティアに取り組み龍谷大ボランティア・NPO活動センターの学生らが29日、大津市役所で越直美市長に活動内容を報告した。

同大学の学生らは2011年6月から昨年10月まで計15回、延べ466人が宮城県石巻市に入り、がれき撤去や地元住民との交流会などのボランティアに取り組んでいる。今年2月には、福島県飯館村や南相馬市などでも住民から現状を聞き取る活動を行った。

報告会で、同センター学生スタッフ代表で新3年生の田川智也さん（22）は「大阪府枚方市には『災害に備える』には地域のつながりが普段からつくることが大事だと実感した」と説明。大津市に対し、「大学生が、地域の人とともに備える仕組みがあればよいのでは」と提案した。越市長は「地域住民と一体になって訓練などができるよう検討したい」と応じていた。（小川卓宏）

東北支援 現地での学び報告 大津市役所

龍大生ら「地域のつながり大事」



東日本大震災復興支援ボランティアの活動内容を報告する龍谷大学生ら（大津市役所）

2016年3月30日 京都新聞

上記新聞以外にも以下のメディアにおいて、本学学生や職員が出演し、ボランティア・NPO活動センターの活動を紹介しました。

日付	マスコミ名	番組名
2016年 1月8日（金）	えふえむ草津	イブロケ785

発行日 2016年11月1日
発行・編集 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
印刷 双林株式会社



龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

■ 深草キャンパス

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-2047 FAX 075-645-2064
・京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分
・JR奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
・京都市営地下鉄「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分

■ 瀬田キャンパス

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-544-7252 FAX 077-544-7261
・JRびわこ線「瀬田」駅下車、帝産バス約8分

URL <http://www.ryukoku.ac.jp/npo/>

E-MAIL ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp